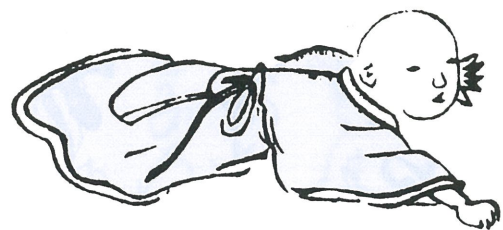


# 近世育児書集成

第二回全8巻 小泉 吉永編・解題

江戸時代の子育て書第一弾五四点に続き、五〇点を影印復刻。

生れて二三日目より過はぬやうやく掌の骨う  
 固まらぬまゝのなりぬはぬ  
 そろく〜と書後の四たむき  
 圃畝又ささせく〜  
 天張り星の傍の人小見の輝輝を  
 とま〜一存のあつた  
 世々〜お申すは  
 渾々〜お申すは  
 危険きまのなり  
 ま〜お申すは



## 近世育児書集成 第二回 (第11巻～第18巻) 全8巻

小泉 吉永 編・解題

A5判/上製函入クロス装/本文クリーム中性紙

揃定価85,000円(税別) 平成23年8月末日刊行

ISBN978-4-87733-596-0(セット) C3337

既刊 第一回(第1巻～第10巻)全10巻

揃定価95,000円(税別)

ISBN4-87733-349-5(セット) C3337

### ●クレス出版好評既刊書●

#### 近世町人思想集成

全17巻/小泉吉永編・解題

18世紀後半から「『町人道』は漸く『人間の道』に拡大され」、「人としてあるべきこと」を考えるようになった。主要な商人教訓書約60点を影印復刻し、索引を設けて町人思想の変遷を一望できるように集成。近世の庶民が何をどのように読んだのか。

A5判/総6,100頁/揃定価180,000円/978-4-87733-522-9

#### 近世礼法書集成

全15巻別冊1/小泉吉永編・解題

江戸時代の小笠原流関連書53点を武家礼法・庶民礼法・女性礼法・婚礼に分類・集録し、武家から庶民、あるいは女性礼法への広がりや礼法の変遷が一望できるように試みた初の集成。「小笠原流」がどのように形成され一般化したのか、庶民にいかにか受容されたのか。

A5判/総6,100頁/揃定価124,000円/ISBN978-4-87733-400-0

#### 家庭文庫

全12巻別冊解説/上笠一郎・山崎朋子編纂

大正の初期に、当時の女子・高等教育のリーダーとして高名だった人々、下田歌子・嘉悦孝子・吉岡弥生・棚橋純子・津田梅子・矢島桐子・山脇房子・跡見花蔭・三輪田真佐子などが、〈婦人文庫刊行会〉という会を結成。この会が、江戸時代の女訓書を集成した『婦人文庫』(全12巻)に次いで、その近代版として編んだもの。〈女性思想〉を追究し〈家庭思想〉の展開を跡づけるためには必須の貴重文献。

四六判/総4,540頁/揃定価91,000円 ISBN4-87733-326-6

- 《女性原論》新婦人訓(成瀬仁蔵)、良妻賢母論(宮田脩)
- 《家庭原論》家政講話(嘉悦孝子)、家庭経済(和田垣謙三)
- 《家庭生活》理想の住宅(保岡勝也)、家庭衛生(吉岡弥生)
- 《家庭教養》家庭博物(石川千代松)、新美装法(藤波芙蓉)
- 《家庭文化》家庭の娯楽(松浦政泰)、芸術講話(島村抱月)
- 《産育教育》児童の教養(三田谷啓)、童話の研究(高木敏雄)

#### 《日本人、育てのなかのしつけ論》文献シリーズ

全9巻/石川松太郎・山本敏子・藤枝充子編・解説

「しつけ」の歴史と将来の課題とを念頭において、明治から昭和末までの18文献を取録。教育学はもとより、心理学・社会学・民俗学・民族学・小児医学など広域におよぶ視角から選抄。

A5判/総4,560頁/揃定価90,000円 ISBN4-87733-327-X

- 第1巻 日本のしつけ、日本礼法史話
- 第2巻 婦女心得 躰と育、子供の躰方 一名育児憲法
- 第3巻 家庭教育 子供のしつけ方、実験 子供の躰け方
- 第4巻 女工の躰けと教育、女工の躰けは此呼吸から
- 第5巻 国民学校 躰の修練実践、国民学校 ヨイコドモの躰
- 第6巻 幼児の家庭教育、子どもの自由としつけ
- 第7巻 こどもの心理としつけ、幼児の心理としつけ
- 第8巻 巨視的しつけ法、しつけ
- 第9巻 言葉の教養 躰の変遷と現代の問題点、しつけ

#### 日本の子ども研究

全Ⅲ期15巻別巻5/大泉博編・解説

- 第Ⅰ期 子ども理解の科学化 明治・大正期を中心に 476-5
- 第1巻 欧米児童研究の移植と初期の研究 定価19,000円
- 第2巻 児童観の進展と心理学への期待 定価22,000円
- 第3巻 発達研究の開拓と知能検査の翻案 定価22,000円
- 第4巻 大正新教育と学力評価 定価19,000円
- 別巻Ⅰ 近代日本の児童相談 定価13,000円
- 第一回配本 第1巻～第4巻、別巻Ⅰ 全5巻 揃定価95,000円
- 第Ⅱ期 子ども理解の広がりりと試練(一) 481-9
- 第5巻 昭和初期の心理学と実践 定価22,000円
- 第6巻 一九三〇年代日本の児童研究 定価20,000円
- 第7巻 留岡清男の子ども研究と生活教育論 定価20,000円
- 第8巻 奥田三郎の子ども研究と治療教育方法論 定価20,000円
- 第二回配本 第5巻～第8巻 全4巻 揃定価82,000円
- 第Ⅱ期 子ども理解の広がりりと試練(二) 486-4
- 第9巻 児童心理学の戦中と戦後 定価26,000円
- 第10巻 戦後児童心理学の再出発 定価25,000円
- 別巻Ⅱ 戦後の教育心理学の起点 定価21,000円
- 別巻Ⅲ 児童心理学の総括 定価23,000円
- 第三回配本 第9、10巻、別巻Ⅱ、Ⅲ 全4巻 揃定価95,000円
- 第Ⅲ期 子ども理解の深まりと新しい実践性の獲得へ(一) 555-7
- 第11巻 障害児実態調査の戦前と戦後 定価26,000円
- 第12巻 戦後の児童学と「日本の子ども」という視座 定価26,000円
- 別巻Ⅳ 城戸幡太郎と日本の教育心理学 定価26,000円
- 第四回配本 第11巻、第12巻、別巻Ⅳ 全3巻 揃定価78,000円
- 第Ⅲ期 子ども理解の深まりと新しい実践性の獲得へ(二) 560-1
- 第13巻 田中昌人の発達過程研究と発達保障論の生成 定価25,000円
- 第14巻 新しい子ども研究への胎動 定価26,000円
- 第15巻 調査・研究の方法論的深化と実践性の獲得へ 定価22,000円
- 別巻Ⅴ 日本の心理学者と子ども研究 定価22,000円
- 第五回配本 第13巻～第15巻、別巻Ⅴ 全4巻 揃定価95,000円
- 第六回配本 解説(未刊) 487-1 定価5,000円

A5判/総23,000頁/揃定価450,000円

クレス出版

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メロ一ナ日本橋  
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

株式会社クレス出版

●書店名

# 序にかえて

小泉吉永

「教育」という言葉が庶民に浸透したのはいつ頃であろうか。

『日本国語大事典』(小学館)の「教育」項には「知識を与え、個人の能力を伸ばすためのいとなみ。現代では、一定期間、計画的、組織的に行なう学校教育をさす場合が多い」とあり、江村北海作、天明三年(二七八三)刊『授業編』四卷の「孔子ハ其ノ他徒遊ノ弟子ヲ教育マシクテ」の用例を掲げる。

しかし、既に享保一九年(一七三四)序『民家童蒙解』四卷「教育」章で、常盤潭北は庶民家庭の育児の要諦を縷々述べている。本書は北関東一円を遊歴した際の講話録で、彼が講話の中で「教育」という言葉に触れたか否かは不明だが、少なくとも本書によって、家庭教育としての「教育」が庶民に広がったことは間違いない。また、さらに古く、江戸の医者・千村拙庵は元禄元年(一六八八)序『小児養生録』で「三つ子の意は百になるまでとをるといひ、伝れば、いよく教育をつしむべし」と幼児教育の重要性を説いており、近世の育児書では家庭教育としての「教育」の用例が古い。

このたび、『近世育児書集成』は第一弾(第一〜一〇巻)に引き続き、『民家童蒙解』など五〇点を第一〜一八巻に収録し刊行する運びとなった。育児に関する言説は、育児書以外の様々な文献に登場するため、探せば無数に出てくるが、基本文献はほぼ網羅できたと考えている。

ちなみに、本集成所収の育児書一〇四点(重複や不明を除く著者九一人)を改めて俯瞰すると、一八世紀以後の育児書の急増が著書の多様化と無縁でないことに気付く。著者九一人の職分は、①漢学者二二・〇%、②医者九・三%、③書家・手習師匠七・一%、④往来物作者六・六%、⑤心学者六・〇%、⑥僧侶四・九%、⑦幕臣(那代・代官)四・九%、⑧経世家三・八%、⑨俳人・歌人・漢詩人三・三%、⑩商家三・三%の順に多く、以下、戯作者、神道家・国学者、書肆、作家(仮名草子・読本



等)、藩士、故実家、庶民篤志家、將軍・大名、道学者・教育家、武家女性、絵師、農家、農政家と続く。このうち、医者の育児書は江戸期を通じて一定割合で推移したが、漢学者の育児書は一八世紀以後激減し、変わって庶民の育児書が台頭した。いずれにせよ、近世の育児書については、著者の職分や性別、想定された読者対象と、育児書に説かれた児童観や教育論との関係など、まだまだ検討の余地が多く、女訓書等の育児論にもさらに目を向ける必要がある。今後、これらの研究に本集成が活用され、日本の教育文化が見直されることを願っている。

(法政大学講師・往来物研究家)



## 第17卷

仁術欲心抄 (辻慶儀作、天保四年刊)  
 五倫訓 (大館天涯作、天保七年刊)  
 子供そだつる教へ草 (作者不明、天保十一年刊)  
 主従心得草 (後編上巻) (寿福軒真鏡作、天保十四年刊)  
 丙午明辨 (池田義信作、弘化二年刊)  
 丙午辨 (松亭金水作、弘化二年刊)

## 第18卷

微味幽玄考 (抄) (大原幽学作、明治十六年書)  
 産家教草 (阿部三省遺稿、嘉永三年刊)  
 垂統秘録 (抄) (佐藤信淵作、明治十一年刊)  
 農家幼童教草 (荒野鳳山作、文久二年書)  
 産家教導辨 (森川仁寿齋作、文久二年刊)  
 産育和讃 (作者不明、江戸後期刊)  
 小児寿草 (浅田宗伯編、明治二十年刊)  
 全卷索引

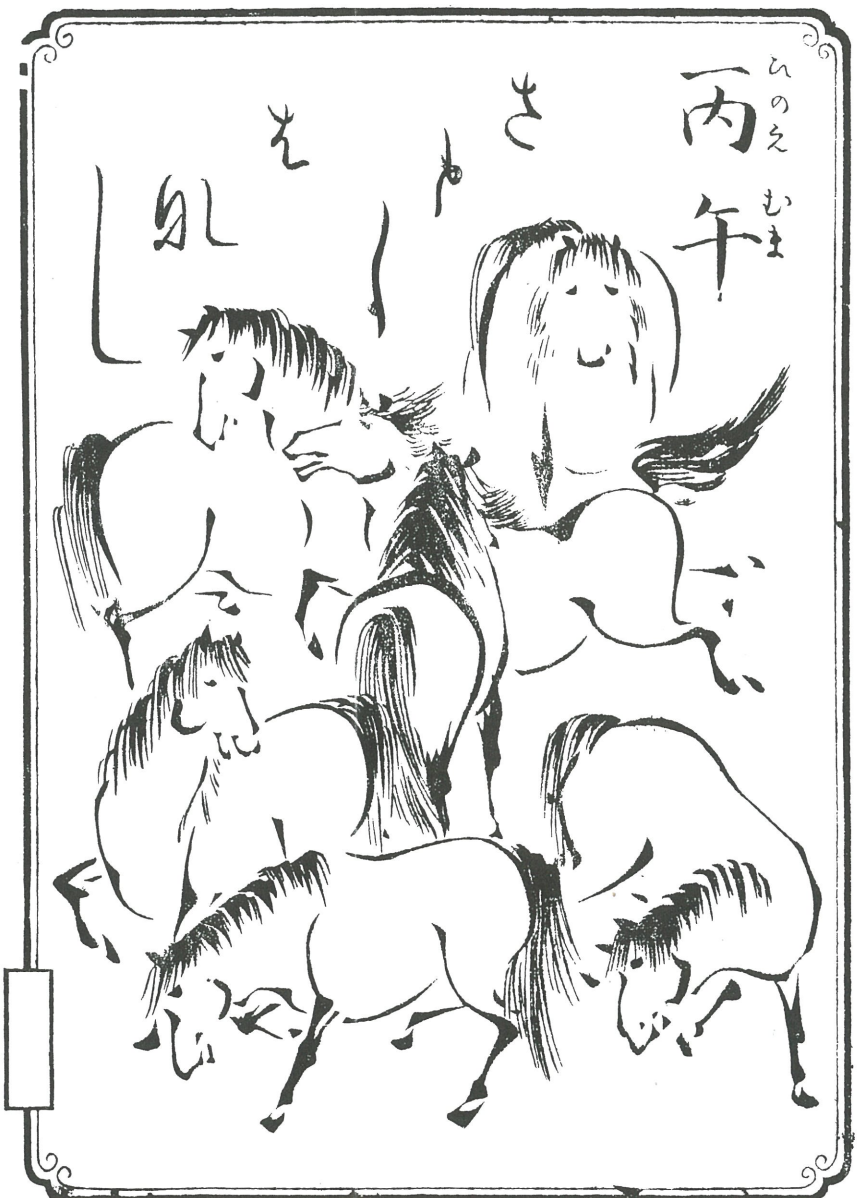


### 〈近世育児書集成 第一回全10巻〉

- 第1巻 翁問答、女式目、〈貞節教訓〉女式目、〈教訓故事〉女五経大全、やまと小学、大和小学、婦人ことぶき草
- 第2巻 和俗童子訓、〈貝原先生〉家訓
- 第3巻 〈増補糸入〉小児必用記、大和女訓
- 第4巻 六論衍義・六論衍義大意、家内用心集、養子訓、〈日用重宝〉女諸礼綾錦、寺子幼訓往来、〈町人〉身体はしら立、生涯肝要章
- 第5巻 前訓、道得問答、我津衛、子もりうた、〈本心近道〉真一文字、授業編、父兄訓
- 第6巻 世わたり草、女訓、〈教訓〉日用学則
- 第7巻 〈童子教訓〉撫育草、久世条教、条教談話、女幼学、父子訓、父母安堵艸、我身のため
- 第8巻 〈甲申新版〉児女長成往来、〈絵入〉民家育草、〈道話〉自脩編、〈施印〉開驚都計子
- 第9巻 養生一言草、養生女の子算、四徳配当抄、嚶鳴館遺草、〈新鐫絵入〉養育往来、こそだて草
- 第10巻 子孫繁昌手引草、佐登し具斜、愛育茶譚、養育教諭、捨子教誡乃字多、〈教訓〉新女大学要鑑、〈啓蒙〉健全さとし、〈幼稚論第一輯〉修身往来、体操往来、神国幼童おしへ草

## 第15巻

### 丙午さとしばなし



## 第1巻

### 女式目 解題

女式目 (おんなしきもく)

〔異称〕 書名は外題による。目録題・尾題ともに同じ。  
 〔書型〕 大本二巻合一冊。天地二六〇。  
 〔作者〕 最登被留(中野弥兵衛)作。  
 〔年代〕 万治三年(一六六〇)二月刊。「京都」中野弥兵衛板。ただし底本は刊年の記載がある『儒仏物語』を欠くため刊年不明。  
 〔内容〕 本来は『女式目』二巻に『儒仏物語』一巻を合わせた三巻三冊本で、寛永一四年(一六三七)刊『女訓抄』や慶安三年(一六五〇)刊『をむなか見』に次いで古い初期の女訓書(仮名草子)。上巻には「一、うへくの上臈方の作法」以下、「町人などの女房」「みやづかへの女房」「町人などにつかふる女房」「おなじくお乳うば」「厄」などの各種作法と、「女子おさなき時よりそだてやうの作法」「もろこしのしうげんの作法」「五常の次第」「五倫の次第」「五戒の次第」までの一章、下巻には「女とりわけ手ならひし給ふべき事」「文かき給ふべき上中下の次第」「文ことばおなじやうなる事あらまし」の三章を収録する。上巻では女性の作法・心得や、女子の養育や五常・五倫、五戒・十悪など儒仏の教えについて論ず。下巻は、女子の手習いや手紙の書法・用語など日常生活に必要な教養を主とする。本書は『をむなか見』の影響が色濃く、例えば下巻第二章の女性書札札なども同様の主張を展開するが、より具体的な記述が目立つ。大半が仮名書きの本文中に、「下々おほくめしつかい給ふてい」「びくに物かたりのてい」「しうげんのさしきのてい」など八葉の挿絵を掲げる。再刊本に『貞節教訓 女式目』の題簽を付した寛延四年(一七五二)板(後掲)や宝暦四年(一七五四)板があり、序文や挿絵が一新された。女子教育に関する記述が随所に見られるため、全て収録した。  
 小泉吉永蔵。  
 〔備考〕  
 〔底本〕  
 〔文献〕  
 〔翻刻〕『仮名草子集成・一一』『江戸時代 女性生活絵図大事典・一』『子育ての書・一』は抄録。なお、『日本教育文庫・女訓篇』は後掲『貞節教訓 女式目』の宝暦四年板を底本としている。【影印】『往来物大系・八一』『往来物分類集成・R四一』『往来物分類集成II・R二』。